

## 県立郡山商業高等学校

教科名等：家庭「家庭総合」

単元(題材)名：男女で担う子育て

学年：第3学年

### 実施状況

子育て中の夫婦〈Aさん(育児休業中)・Bさん〉の生活時間の例を示し、子どもの世話を使う時間の多さ、不規則さを確認させ、夫婦のコメントから、夫婦の生活時間の差を読みとらせた。そこで、夫婦がお互いの悩みを解消し、ゆとりのある生活を送るためにには、どのような生活時間の改善が必要か、そのためにはどんな解決策があるかをグループ(6~7人の班 6班)で考えさせた。その際、キーワードとして介護・育児休業法について説明を行い、参考にさせた。各班の意見を発表させ、男女が支えあって子育てをすることの必要性、男女で担う子育てのあり方について考えを深めさせた。

また、Aさん・Bさんのどちらが妻なのかを示していないにもかかわらず、クラス全員がAさんを妻と考えていたため、性別役割分担の固定観念についてふれることにより、私たち一人ひとりが意識を変えていく必要があることにも気付かせるようにした。

### 生徒の感想

- 育児と家事の両立を一人ですることは大変であることを改めて感じた。また、Aを“女”Bを“男”と勝手に決めつけていた自分も性別役割分担意識があることに気づいた。性別役割分担の考えをまず捨てることからはじめなければならないと思う。
- それぞれの班の意見を聞き、改善策もたくさんあると思った。将来自分も育児をするときがあると思うので、夫と協力して性別役割分担の意識を捨てて、育児をしていきたいと思った。
- 子育てというものは夫婦で楽しむべきだと思う。確かに仕事は必要であるが、父と子どものコミュニケーションもとても大切であると思う。小さい頃のふれ合いが、大人になるまでの成長過程に影響すると思う。
- 夫婦で協力することが最も大切なないと感じました。育児に関する制度がもっと世間に広まり、制度を利用しやすくなれば良いと思います。また、性別役割分担も問題で、確かに、私自身も、「女性は育児」などと思っていたことに気づかされました。そういったところから、意識が変わっていくかなくてはいけないなあと改めて実感することができました。

### 参観者の感想

- 生徒たちは、自分達の将来のことを考え、また、生徒によっては自分の家庭のこと(両親)を考えていました。理想と現実のギャップ、理想が実現できない現実の社会について生徒に考えさせ、発展させていけば深まることだと思います。
- 家族の設定で男女の特定をしていないにもかかわらず、生徒の中では性別役割分担がしっかりなされていることを痛感しました。次代を担う高校生にとって、気づきと考えさせることのできる有意義な授業と考えます。
- 生徒が積極的に思考活動をしている点が良かったです。役割意識の撤廃は、雇用の不安定な時代では特に必要になってくると思いました。このような授業を受けたお父さん予備軍の子育てに期待します。

### 指導者の感想

「子育て＝母親」という固定観念が、生徒たちの意識の中にも強く存在することを痛感させられた。授業を通して、生徒一人一人が、自分自身の身近な課題として主体的にとらえ、様々な意見を聞くことにより、自分の家族及び将来の家族のあり方について考えるきっかけとなったのではないかと思われる。今後は、理想と現実の格差や社会のあり方にもふれていきたい。